

株式会社 **MORESCO**

地球にやさしいオンリーワンを世界に届けるMORESCOグループ

# 第64期決算説明

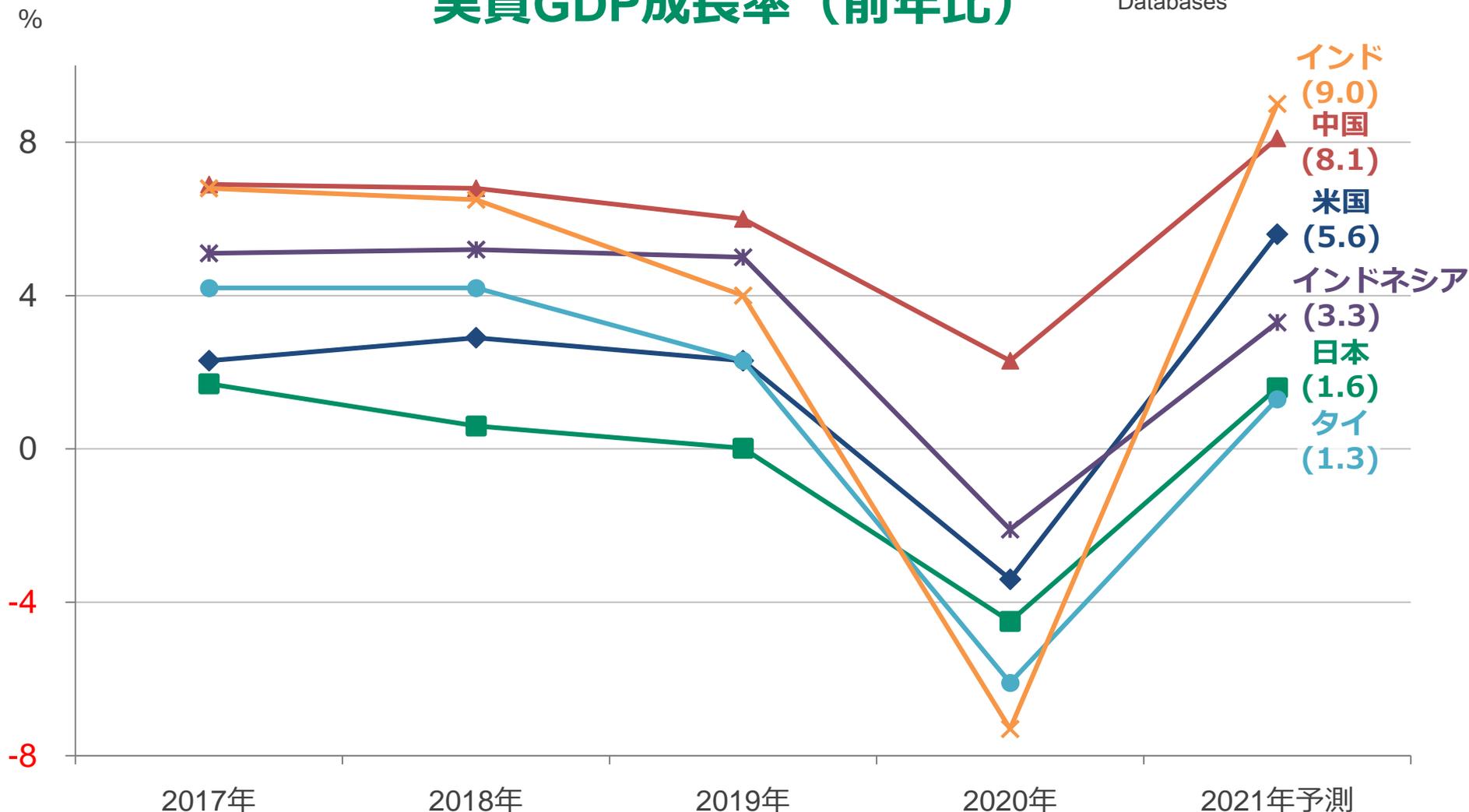
(2021年3月1日～2022年2月28日)

東証プライム 5018 (石油・石炭製品)

2022年4月

## 実質GDP成長率（前年比）

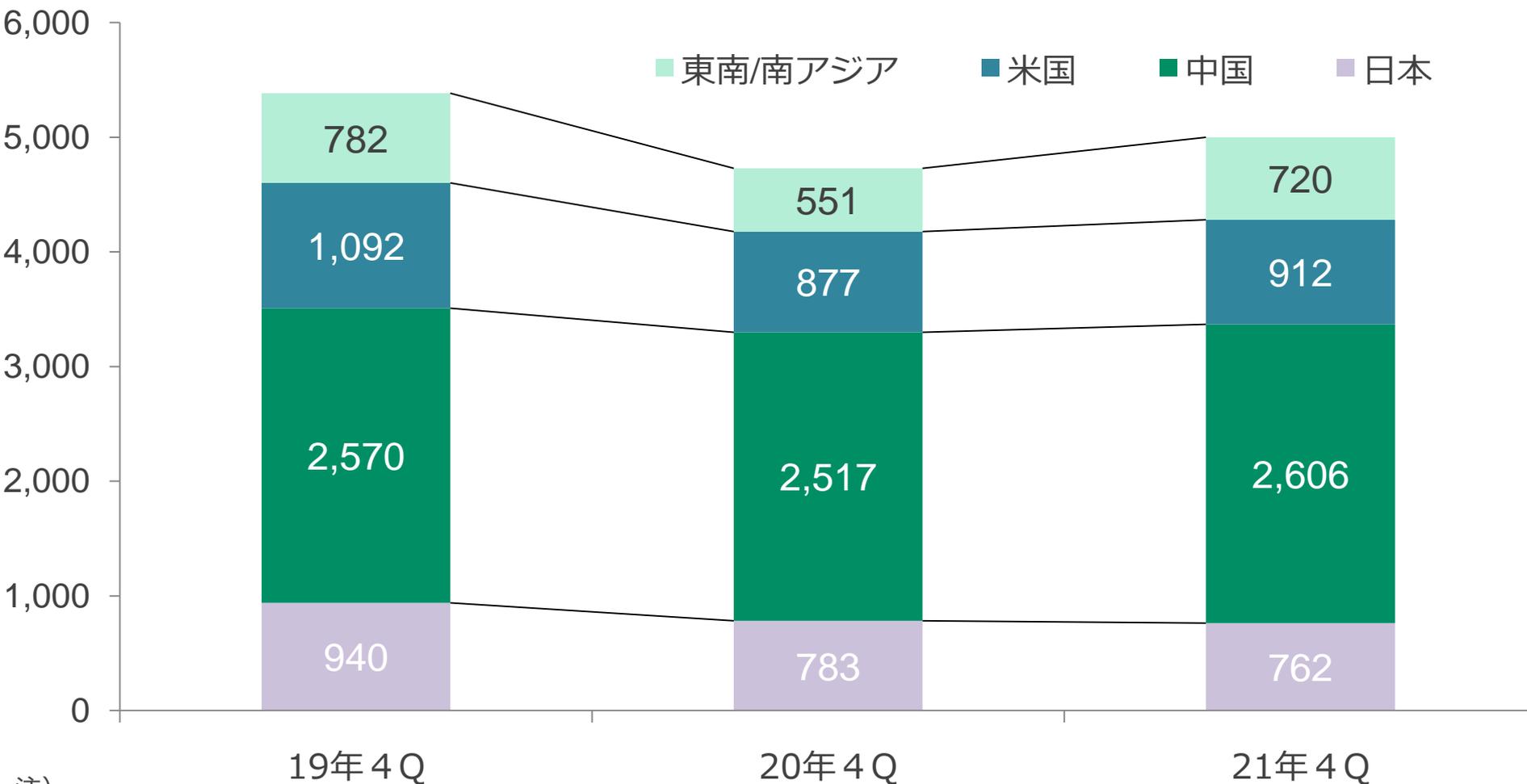
出展：IMF World Economic Outlook Databases



## 当社拠点所在地における自動車生産台数

出典：マークラインズ社

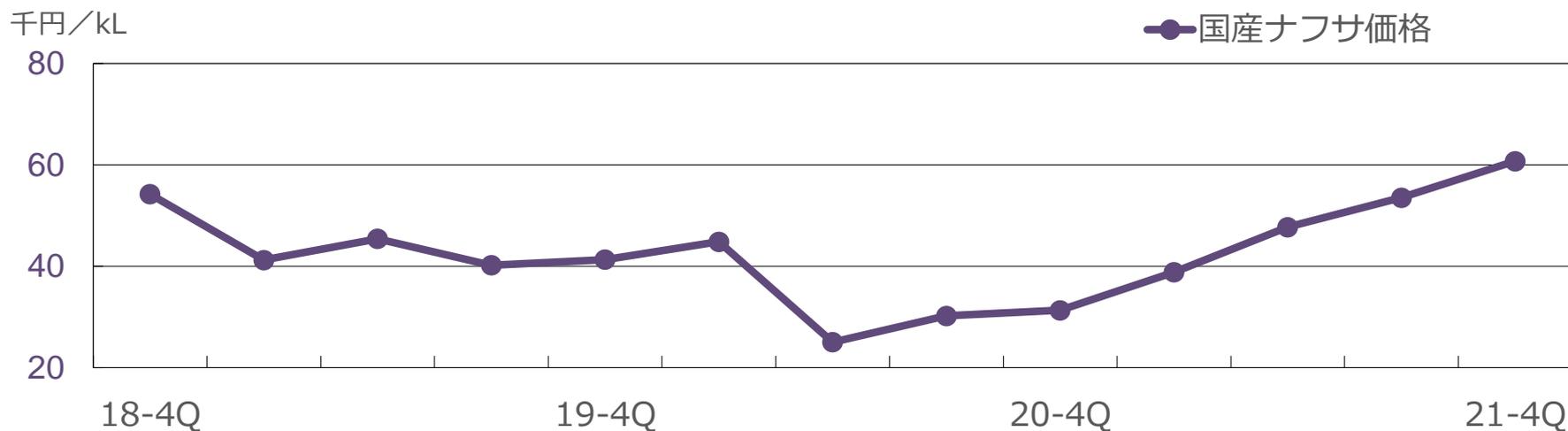
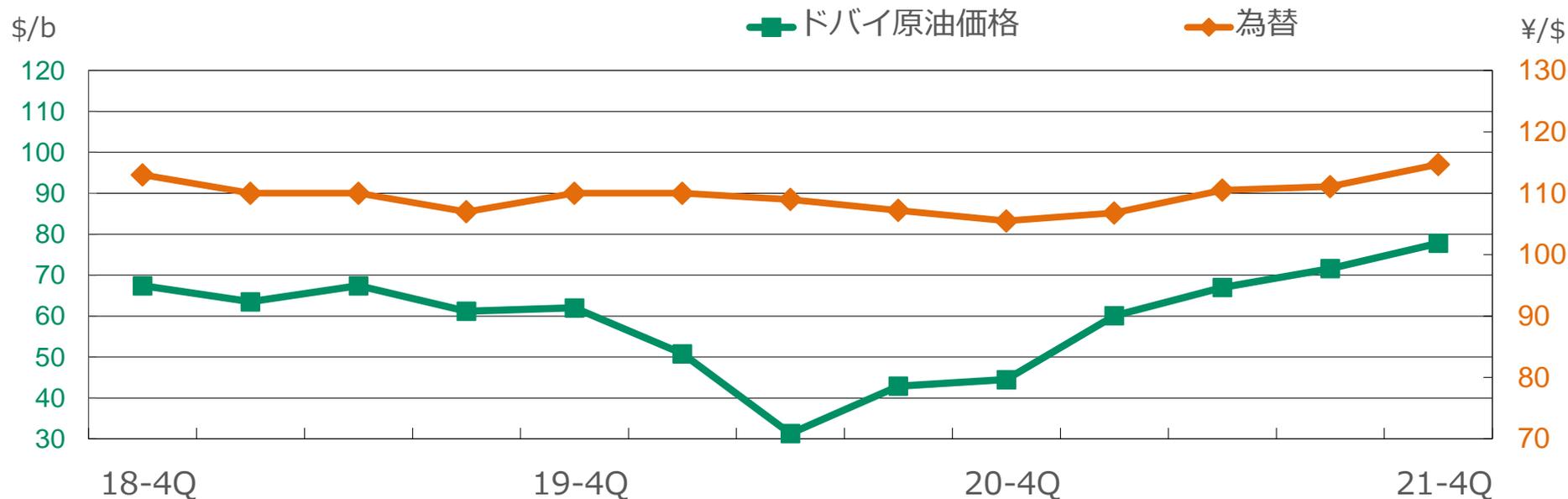
単位：万台



注)

- ①日本は3～2月で、海外は1～12月で集計
- ②東南/南アジアはタイ、インドネシア、インドを集計  
(当社製造販売拠点所在地)

# 当期の経営環境（3）



- 自動車生産の回復や製品販売価格の上昇による増収、為替差益の計上による営業外収益の増加。賃貸用不動産の売却益を特別利益に計上

単位：百万円

科目	21 / 2期	22 / 2期	前期比
売上高	24,479	27,300	+11.5%
売上総利益	7,838	8,725	+11.3%
販管費	6,996	7,291	+4.2%
営業利益	842	1,434	+70.3%
営業外損益	187	577	+208.0%
経常利益	1,030	2,011	+95.3%
特別損益	△119	833	—
税引前利益	911	2,844	+212.3%
当期純利益 (※)	518	1,808	+249.1%

(※) 親会社株主に帰属する当期純利益。

# 部門別売上高の内訳

MORESCO

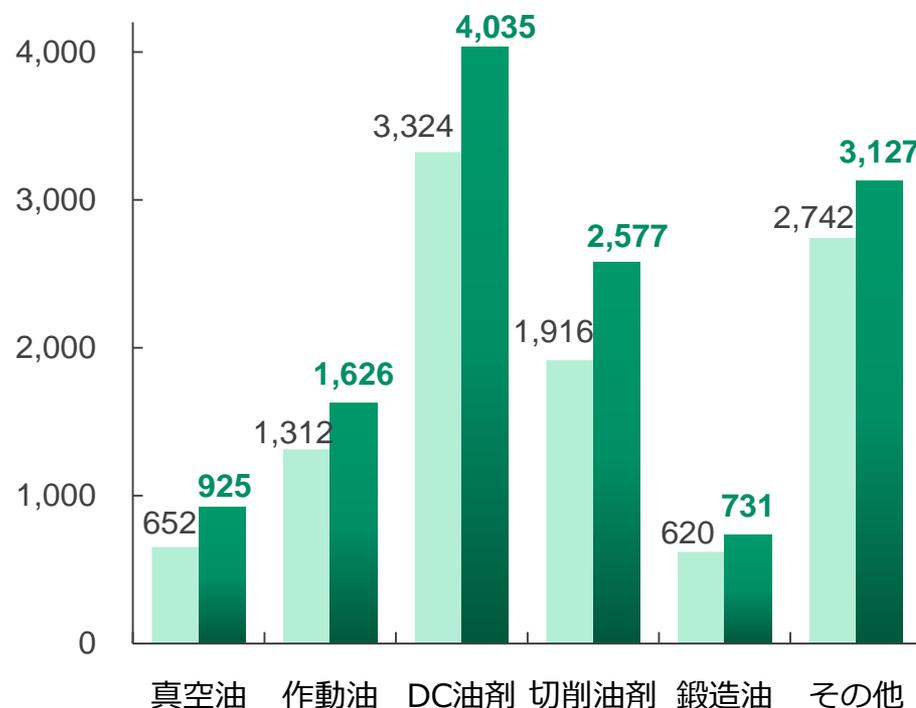
単位：百万円

科目	21 / 2期	22 / 2期	前期比
特殊潤滑油部門	10,566	13,021	+23.2%
合成潤滑油部門	1,872	1,974	+5.5%
（うち、HD潤滑剤）	869	678	△21.9%
素材部門	3,385	3,480	+2.8%
ホットメルト接着剤部門	6,807	6,785	△0.3%
その他	1,795	2,031	+13.1%
化学品事業計	24,425	27,292	+11.7%
ビル事業	53	8	△84.2%
売上高合計	24,479	27,300	+11.5%

➤ 部門全体の売上は前年比23.2%増（13,021百万円）  
数量は17.0%増

単位：百万円

■ 21 / 2期 ■ 22 / 2期



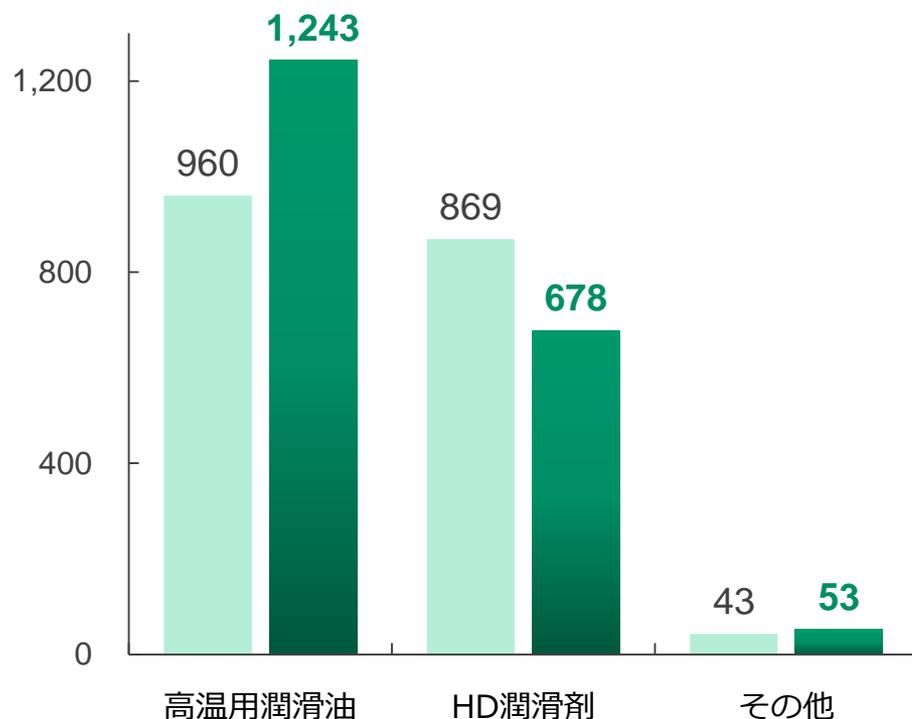
## ➤全般

- 各国、地域での自動車生産が回復基調で推移したことにより、全般的に増収
- 顧客での生産性向上と環境負荷軽減に資する少量塗布型ダイカスト離型剤が国内外で順調に推移
- 切削油剤の拡販が進展

## ➤ 部門全体の売上は前年比5.5%増（1,794百万円）

単位：百万円

■ 21 / 2期    ■ 22 / 2期



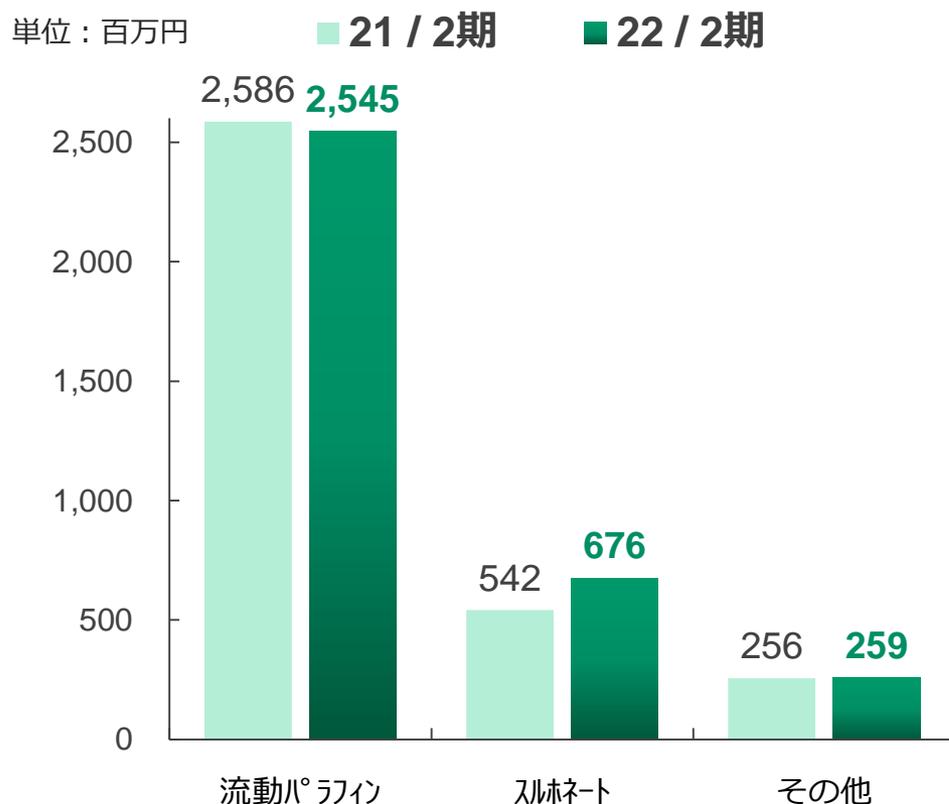
### ➤ 高温用潤滑油

国内需要の回復と旺盛な中国需要を背景に増収

### ➤ ハードディスク表面潤滑剤

パーソナルコンピュータ分野でのSSDへの置換の影響を受け減収。  
(中期的にはデータセンター用途でのHDD需要増を見込む)

➤ 部門全体の売上は前年比2.8%増（3,480百万円）  
数量は7.7%減



## ➤流動パラフィン

ポリスチレン可塑剤および化粧品用途が増収となった一方で、採算性を踏まえて一部取引の見直しを行ったことにより微減

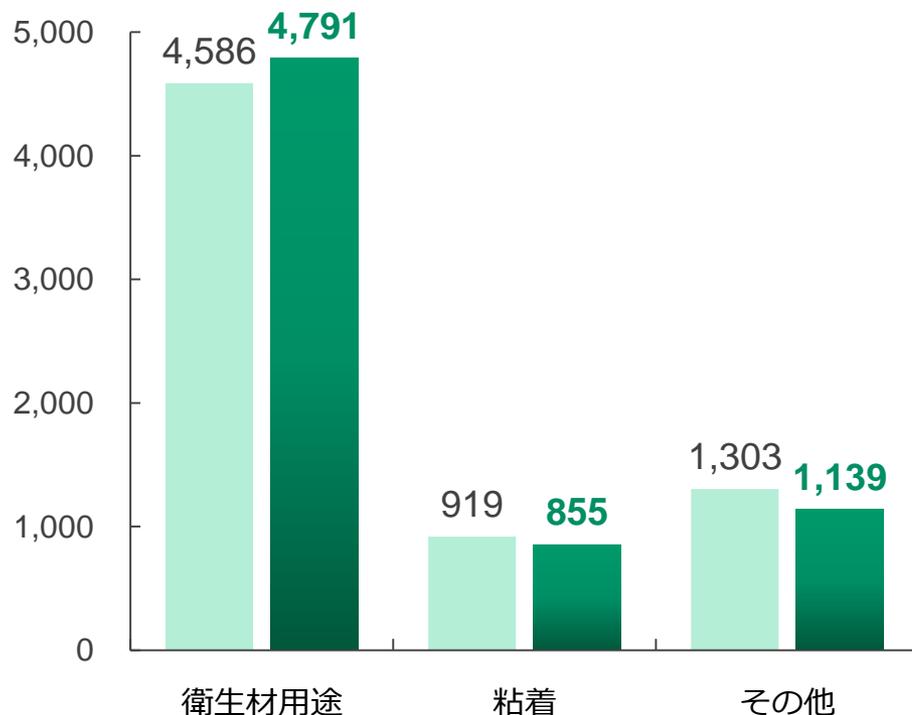
## ➤スルホネート

金属加工油添加剤用途での出荷の回復により増収

➤ 部門全体の売上は前年比0.3%減（6,785百万円）  
数量は1.5%減

単位：百万円

■ 21 / 2期 ■ 22 / 2期



## ➤衛生材用途

国内では微減となるも、インドでの販売増により増収

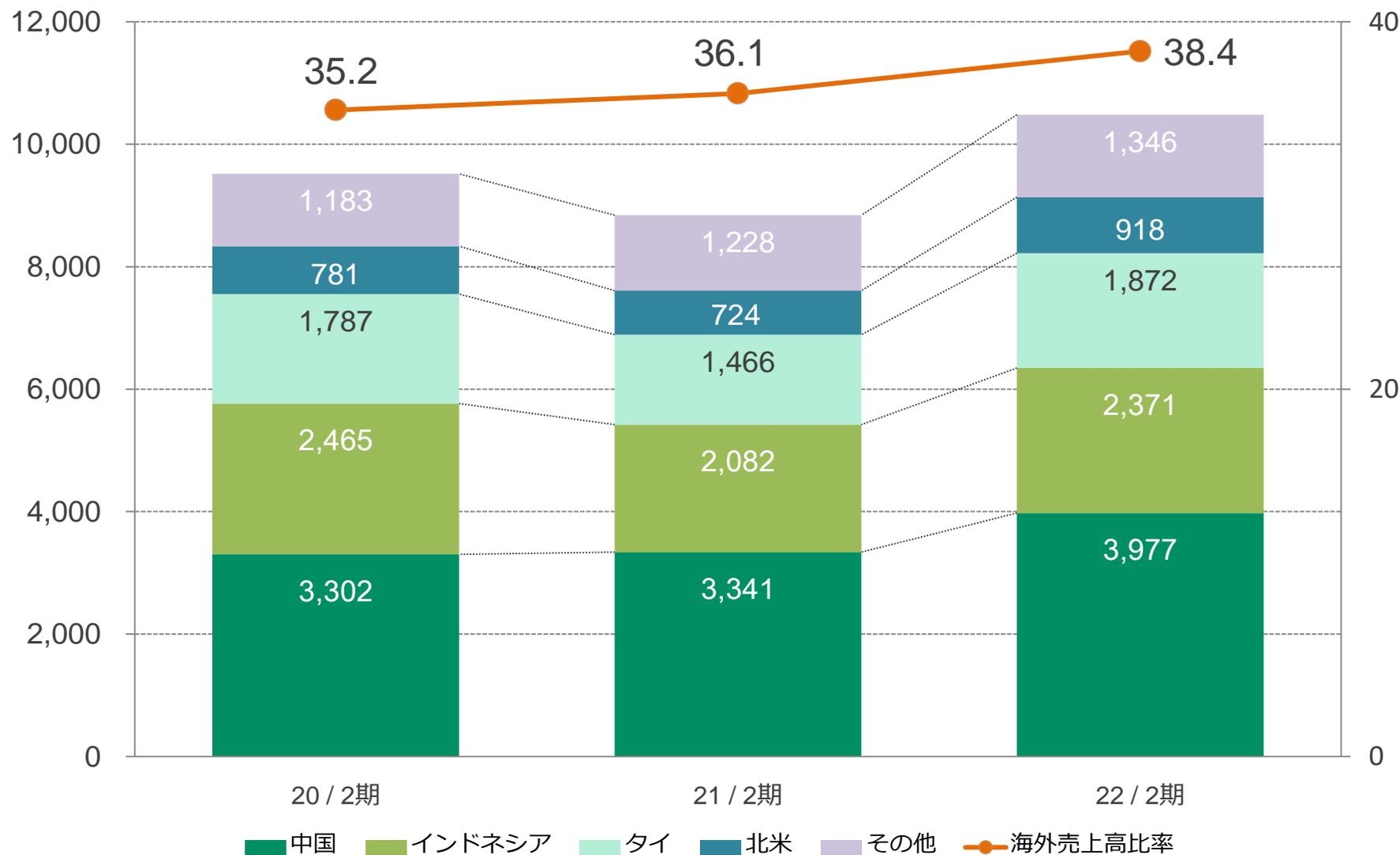
## ➤その他

中国において空気清浄機用フィルター用途が前期好調の反動減

# 海外売上高（連結）

単位：百万円

単位：%



単位：百万円

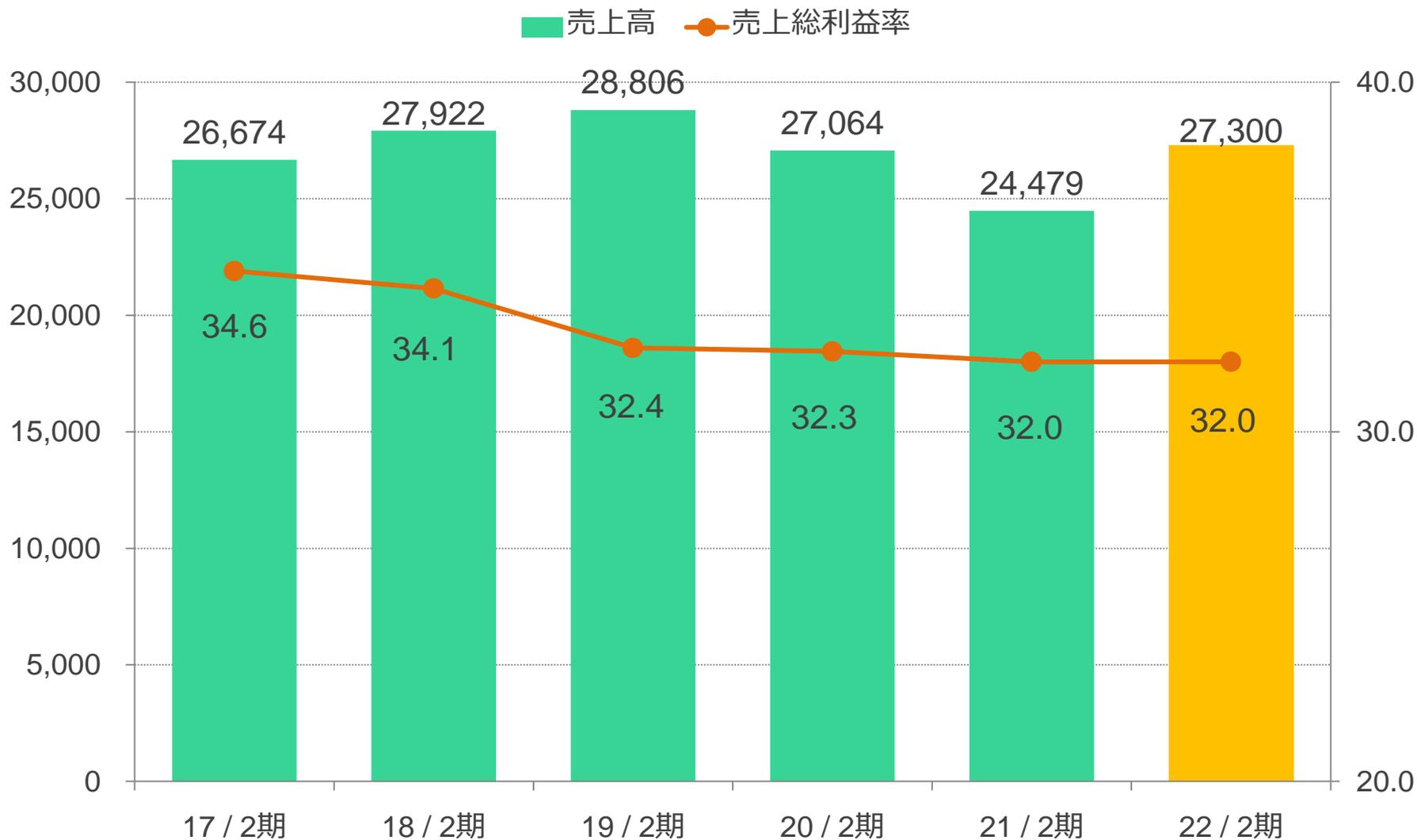
科目	21 / 2期	22 / 2期	前期比
売上高	24,479	27,300	+11.5%
売上総利益	7,838	8,725	+11.3%
販管費	6,996	7,291	+4.2%
営業利益	842	1,434	+70.3%
営業外損益	187	577	+208.0%
経常利益	1,030	2,011	+95.3%
特別損益	△119	833	—
税引前利益	911	2,844	+212.3%
当期純利益 (※)	518	1,808	+249.1%

(※) 親会社株主に帰属する当期純利益。

# 売上高、売上総利益率の推移

単位：百万円

単位：%



# 決算概要 連結損益計算書

単位：百万円

科目	21 / 2期	22 / 2期	前期比
売上高	24,479	27,300	+11.5%
売上総利益	7,838	8,725	+11.3%
販管費	6,996	7,291	+4.2%
営業利益	842	1,434	+70.3%
営業外損益	187	577	+208.0%
経常利益	1,030	2,011	+95.3%
特別損益	△119	833	—
税引前利益	911	2,844	+212.3%
当期純利益 (※)	518	1,808	+249.1%

(※) 親会社株主に帰属する当期純利益。

単位：百万円

	21 / 2期	22 / 2期	増減	前年同期比
販売費・一般管理費	6,996	7,291	+295	+4.2%
うち、研究開発費	1,360	1,359	△1	△0.1%
売上高販管費比率	28.6%	26.7%		
売上高研究開発費比率	5.6%	5.0%		

単位：百万円

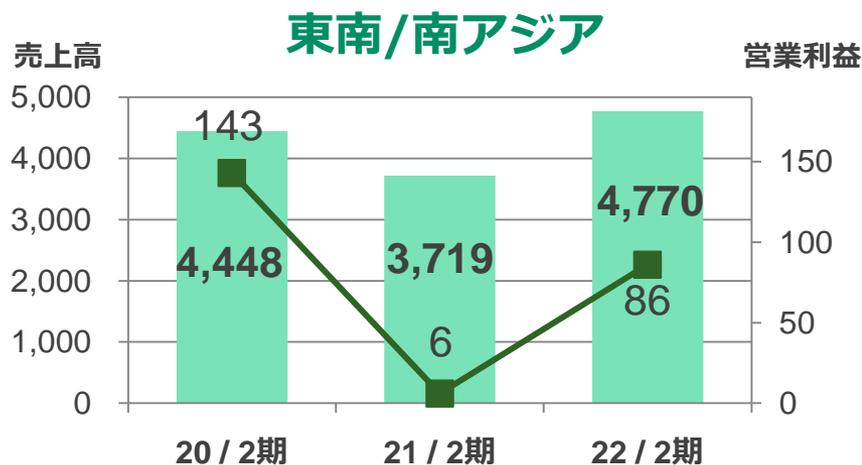
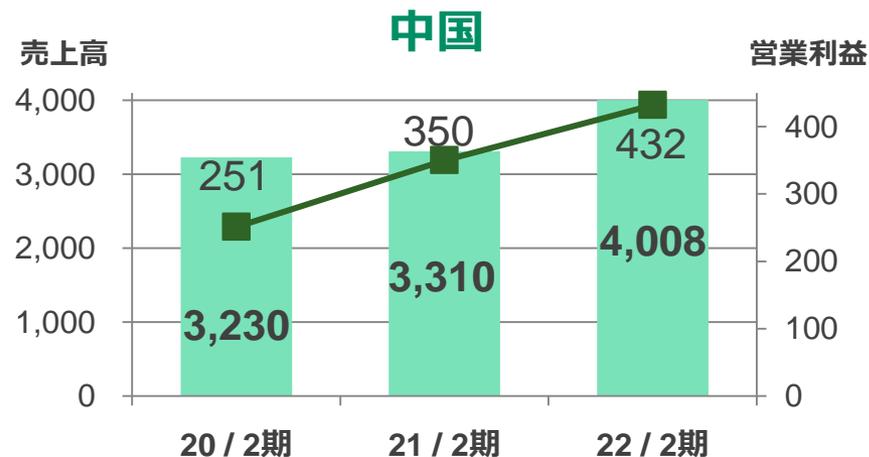
科目	21 / 2期	22 / 2期	前期比
売上高	24,479	27,300	+11.5%
売上総利益	7,838	8,725	+11.3%
販管費	6,996	7,291	+4.2%
営業利益	842	1,434	+70.3%
営業外損益	187	577	+208.0%
経常利益	1,030	2,011	+95.3%
特別損益	△119	833	—
税引前利益	911	2,844	+212.3%
当期純利益 (※)	518	1,808	+249.1%

(※) 親会社株主に帰属する当期純利益。

# 地域別損益（連結）

■ 売上高 ■ 営業利益

単位：百万円



単位：百万円

科目	21 / 2期	22 / 2期	前期比
売上高	24,479	27,300	+11.5%
売上総利益	7,838	8,725	+11.3%
販管費	6,996	7,291	+4.2%
営業利益	842	1,434	+70.3%
営業外損益	187	577	+208.0%
経常利益	1,030	2,011	+95.3%
特別損益	△119	833	—
税引前利益	911	2,844	+212.3%
当期純利益 (※)	518	1,808	+249.1%

(※) 親会社株主に帰属する当期純利益。

# 貸借対照表（連結）

単位：百万円

科目	22 / 2期末	増減	科目	22 / 2期末	増減
現預金	4,001	△107	仕入債務	4,308	333
売上債権	6,844	200	有利子負債	910	△2,409
棚卸資産	5,326	1,085	その他流動負債	2,393	790
その他	436	125	その他固定負債	847	198
流動資産計	16,607	1,303	負債合計	8,457	△1,088
有形固定資産	8,304	△215	資本金・資本剰余金	4,094	△0
無形固定資産	633	△159	利益剰余金	13,517	1,386
投資その他	3,465	372	自己株式	△384	5
固定資産計	12,401	△2	包括利益累計額	735	672
			非支配株主持分	2,589	326
			純資産合計	20,551	2,389
資産合計	29,008	1,301	負債・資本合計	29,008	1,301

注) 増減：21/2期末との比較

単位：百万円

科目	21 / 2期	22 / 2期	増減
設備投資額 合計	725	1,279	+554
MORESCO	474	340	△133
連結子会社	251	939	+688
減価償却費	1,328	1,210	△118

## ➤ 主な設備投資（取得ベース）

エチレンケミカル(株)

- 排水処理設備およびユーティリティ設備の更新
- 事務棟（建設中）

単位：百万円

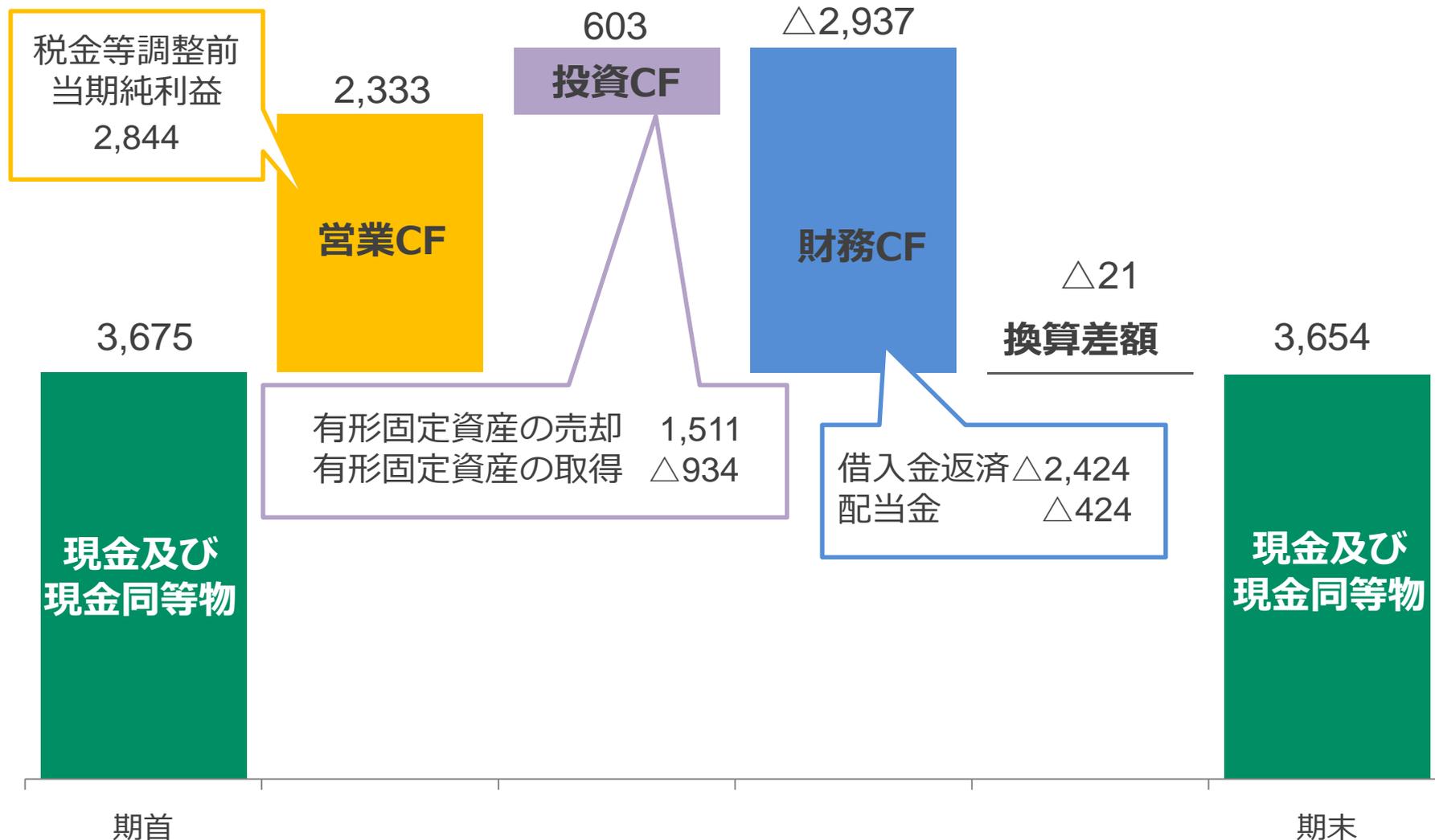
科目	21 / 2期末	22 / 2期末	増減
短期借入金※	2,544	560	△1,984
長期借入金	775	350	△425
借入金合計	3,319	910	△2,409

有利子負債比率	12.0%	3.1%
---------	-------	------

※ 1年以内返済予定の長期借入金を含む

# キャッシュフロー（連結）

単位：百万円



# 2022年度 連結業績予想

単位：百万円

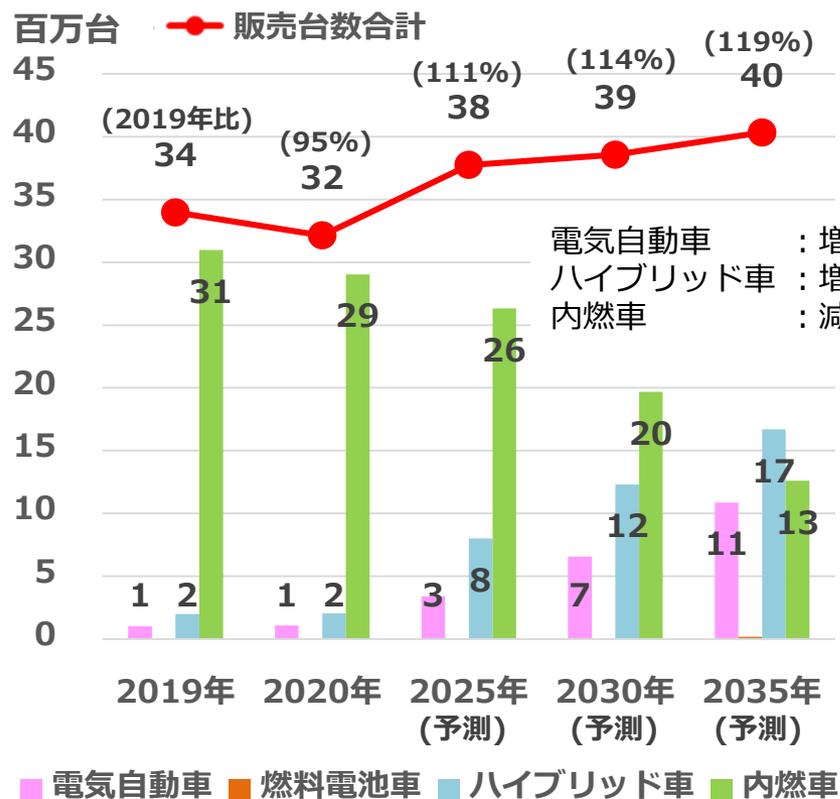
科目	2021年度	2022年度予想
売上高	27,300	30,500
営業利益	1,434	1,850
経常利益	2,011	2,200
当期純利益	1,808	1,300

2021年度実績には、特別利益として固定資産売却益833百万円が含まれています。

# 中期経営計画

## ➤ 自動車販売台数予測と油剤使用量の変化

動力源別 自動車販売台数実績・予測  
(日本、中国、ASEAN・東アジア)



油剤使用量の変化(2019年を1.0とした場合)  
【動力源別自動車販売予測】×【動力源別油剤使用比率】  
(左記予測) (自社調べ)



	DC・切削油等	ホットメルト
2019年	1.00	1.00
2020年	0.95	0.95
2025年	1.10	1.11
2030年	1.10	1.14
2035年	1.13	1.19

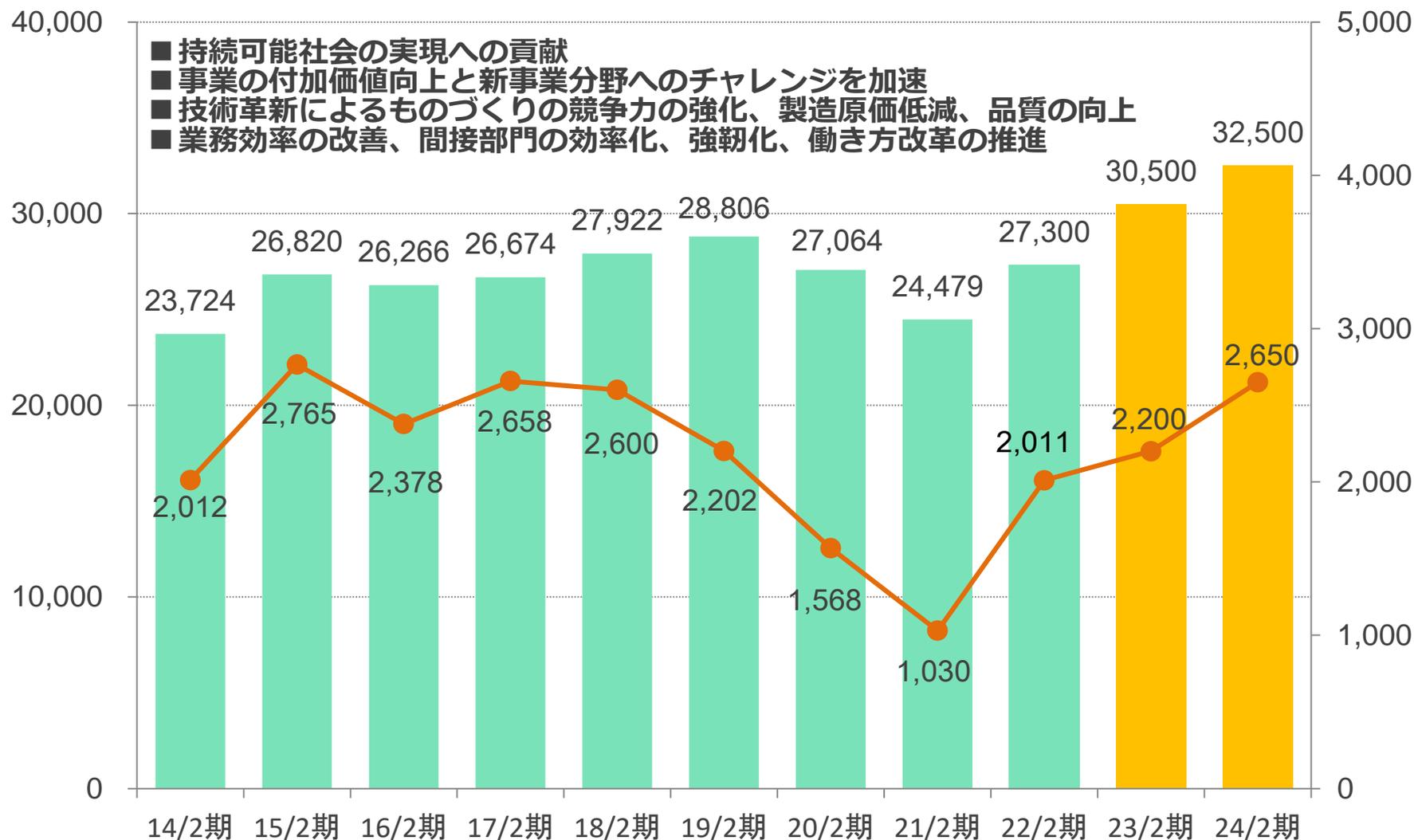
- ・自動車販売台数は全体として2035年に向けて増加傾向
- ・内燃車の販売台数は大きく減少傾向
- ・反対に、電気自動車・ハイブリッド車は大きく増加傾向
- ・ダイカスト離型剤、切削油、ホットメルト等の使用量は、2035年に向けて増加傾向 (上記計算結果)

出典：富士経済 2021年度版HEV、EV関連市場徹底分析調査

# 直近の業績と第9次中期経営計画

■ 14/2~22/2期売上高 ■ 23/2~24/2期売上高（計画） ● 経常利益

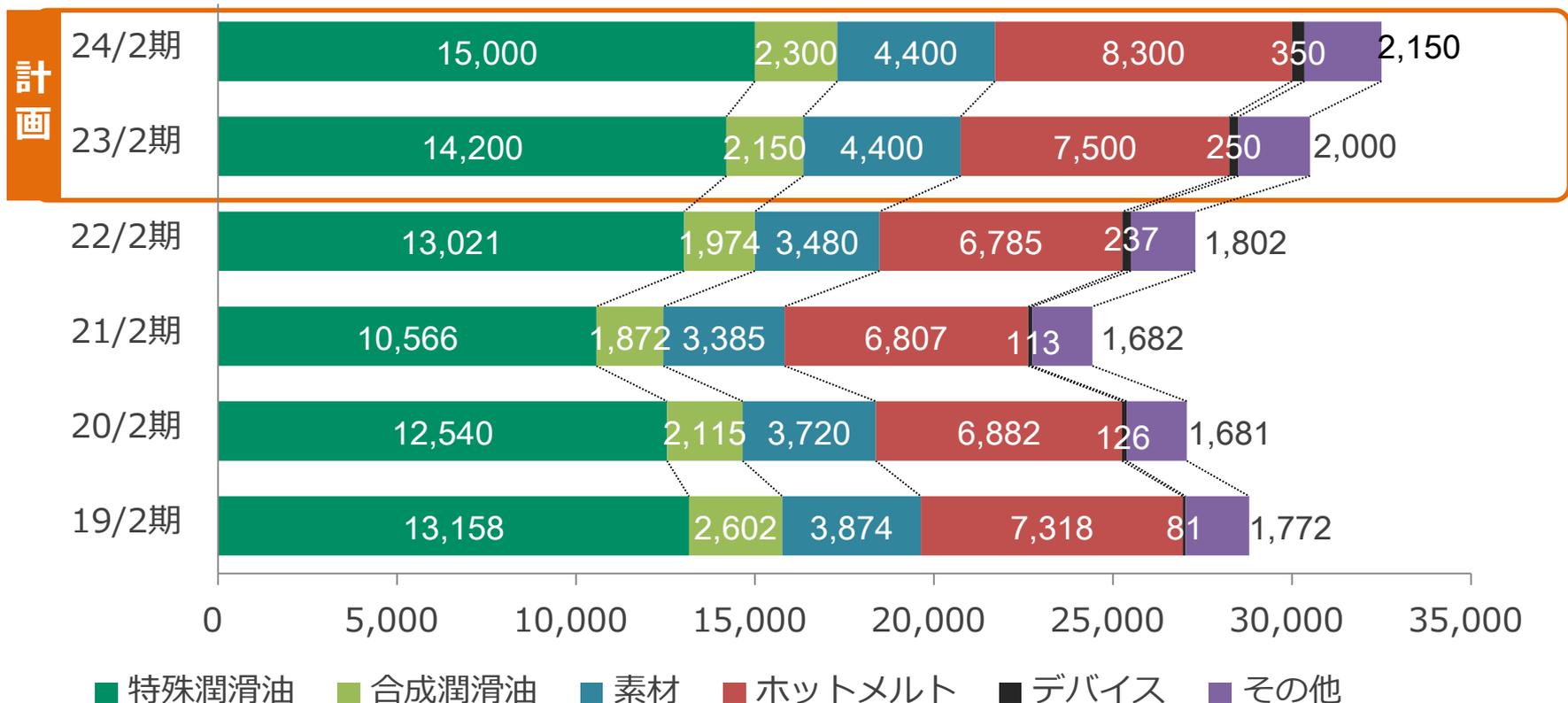
単位：百万円



# 中期計画 部門別売上高の推移（連結）

- 特殊潤滑油：少量塗布型ダイカスト離型剤の拡販、切削油剤、熱間鍛造潤滑剤のシェア拡大
- 合成潤滑油：高温用潤滑剤の用途開発、海外展開、次世代磁気ディスク用表面潤滑剤の開発
- ホットメルト接着剤：低臭気、低VOC型等、顧客ニーズに合った環境配慮型製品の開発促進
- デバイス材料：有機EL向け封止材の海外展開加速
- インド市場開拓
- ライフサイエンス分野での新ビジネス創出

単位：百万円

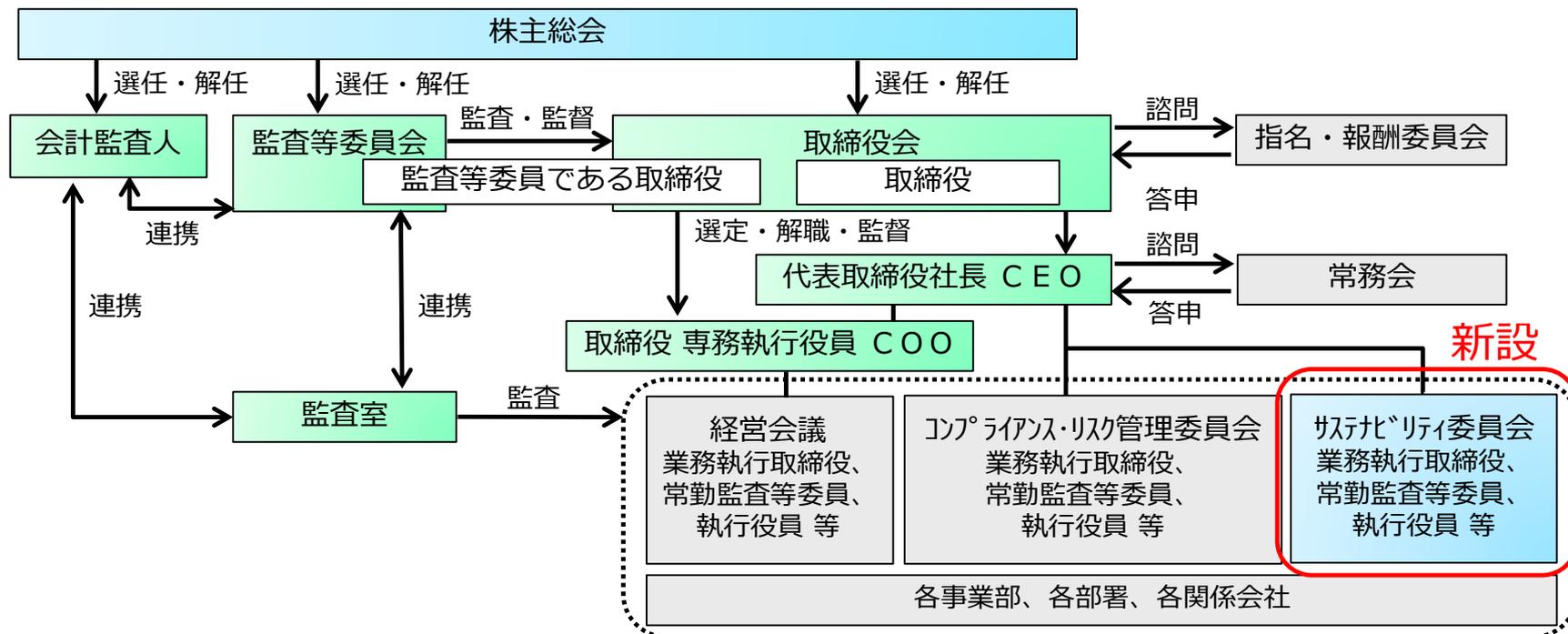


# 持続可能社会の実現

## ① サステナビリティ基本方針の制定

MORESCOグループは経営理念にある境界領域のスペシャリストとして、「持続可能社会の実現」と「中長期的な企業価値の向上」を基本に事業を運営することによりステークホルダーの信頼を高めるとともに、社会課題や環境課題の解決に貢献するべく、サステナビリティ活動を積極的に推進します。

## ② サステナビリティ推進体制の構築



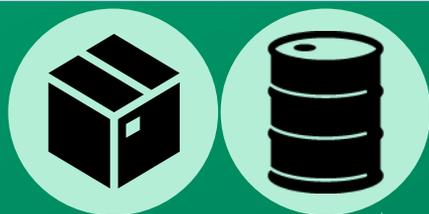
## ③ 7つのマテリアリティ

	マテリアリティ	関連するSDGs	目指す取り組み
事業活動に関する 重要課題	環境負荷低減の実現	7 12 13 6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より長寿命で、廃棄物や環境負荷が少ない製品の開発</li> <li>・潤滑油や容器等のリサイクル推進</li> <li>・生産プロセスにおけるCO2排出量、廃棄物、排水量の抑制</li> <li>・環境に配慮した製品供給</li> <li>・再生可能エネルギーの推進、エネルギーの省力化</li> </ul>
	革新的な製品、サービスの開発	9 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「環境分野」「情報関連分野」「エネルギーデバイス分野」を中心とした既存分野での技術革新に貢献</li> <li>・新たな分野の開拓</li> </ul>
	技術革新による新たな価値創造と生産性の向上	9 8 12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たなビジネスモデルの構築</li> <li>・デジタル技術を活用し、生産効率の最適化と環境負荷の最小化を実現</li> <li>・事故やトラブルの防止や労働負担軽減による安心・安全・快適な労働環境の実現</li> </ul>
	サプライチェーン強靱化による持続的な安定供給	11 12 8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原材料の安定調達</li> <li>・人権や原料由来を考慮した調達</li> <li>・供給体制の強化</li> <li>・BCP体制整備の加速</li> </ul>
	パートナーシップの強化	17	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究機関等との共同研究により、イノベーションを創出</li> <li>・材料メーカーや販売代理店等とパートナーシップを結び、共通課題を達成</li> <li>・地域社会との価値共創とCSR活動の強化</li> </ul>
社内基盤に関する 重要課題	多様な人材の育成と登用による人的資本の強化	4 5 8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバルやデジタル分野などで活躍できる人材の育成</li> <li>・女性人材の登用</li> <li>・人的資本の強化・成長を促す評価制度や研修制度</li> </ul>
	心身ともに充実でき、人権を重視した働き方の実現	3 8 16	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークライフバランスの向上</li> <li>・社員の健康促進</li> <li>・DE&amp;I（多様性・公平性・包摂性）重視の企業文化</li> <li>・人権を重視した職場環境の整備</li> <li>・ハラスメントのない職場</li> <li>・業務プロセスの見直し</li> </ul>

## ➤ サプライチェーン全体での温室効果ガス削減

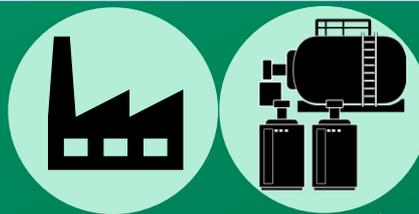
- 2030年までに自社消費エネルギーによるGHG排出量の46%削減(2013年対比)、さらにはサプライチェーン全体での排出量把握と、2050年までにカーボンニュートラル実現を目指します。  
※GHG…Greenhouse Gas/温室効果ガス

### 購買



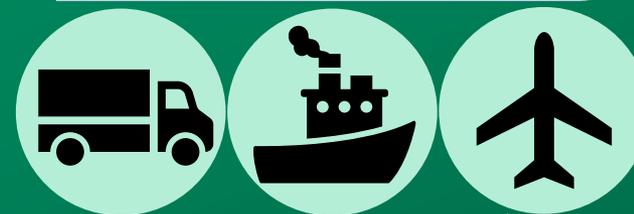
購入する原材料の  
生産に伴うGHG排出量

### 生産



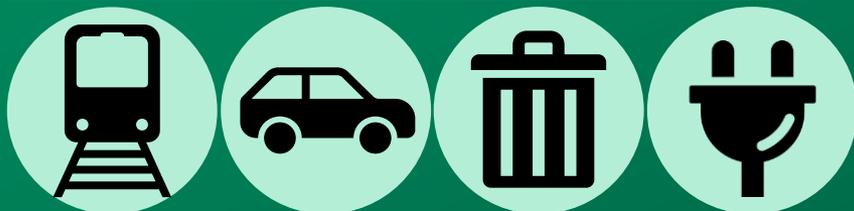
ガス・重油使用等に伴う  
GHG排出量

### 販売



顧客までの輸送に伴う  
GHG排出量

### 全社



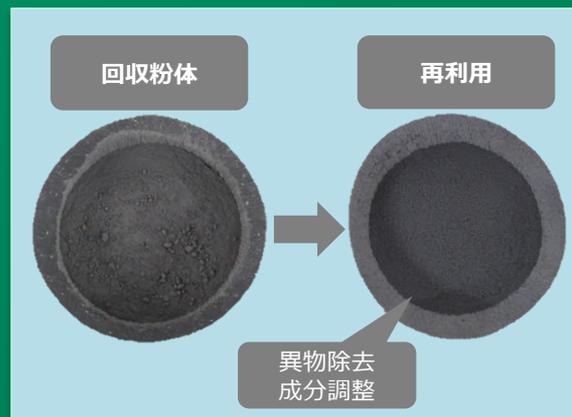
従業員の通勤、出張、廃棄物処理、  
全拠点での電気使用等に伴うGHG排出量

## ▶ 特殊潤滑油のリサイクル

### 水グリコール系作動油



### 粉体離型剤



### 水溶性切削油



### 【従来からの取り組み】

- 古くなった水グリコール系作動油から劣化していない成分だけを抽出し、同製品の原材料として有効活用する。

### 【これからの取り組み】

- 使用後の粉体離型剤を回収しリサイクルする。
- 潤滑油の原材料としてリサイクル原料の使用を拡大する。

## ▶ 植物由来樹脂を配合したホットメルト接着剤

- ▶ 植物等バイオマスから作られる製品は、燃やしても二酸化炭素の増減に影響を与えない。(カーボンニュートラル)

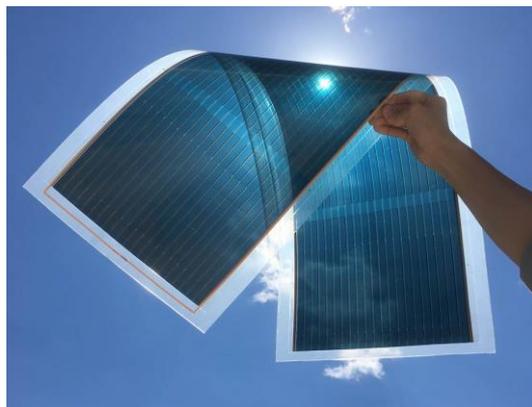


品番	BM-546Z	BM-105	BM-508Z
バイオマス度	 バイオマス No.200115	 バイオマス No.200116	 バイオマス No.200114
主成分	合成ゴム	合成ゴム	合成ゴム
特長	汎用ラベル向け 強粘着・低ブリード	FDA175.125準拠 (食品直貼り可)	冷凍・冷蔵品へ 貼付け可能

- 日本有機資源協会からホットメルト粘着剤3品番がバイオマスマーク商品として認定。
- 紙おむつ等に使用される衛生用品用ホットメルト接着剤についても、植物由来樹脂を20～40%配合した製品を開発。

## ➤ 有機薄膜太陽電池(OPV)

- OPVは生産時のCO2発生がシリコン太陽電池に比べて約1/5であり、太陽電池の中でもよりエコな太陽電池。
- 現在、国内では当社が唯一、連続印刷でのOPVのモジュールを作製。



フレキシブルなOPVモジュール



商業ビルのオフィス内へ設置



OPV表面への印刷によるデザイン付与

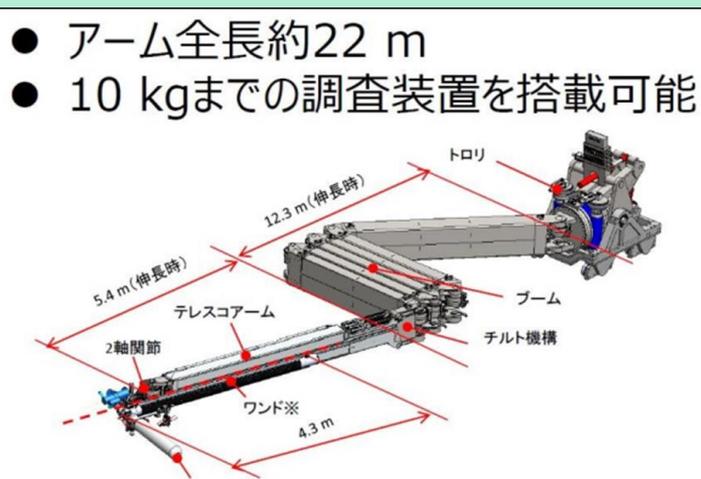
連続フィルムへ対応可能なレーザー技術により、自由なデザイン付与。  
OPV表面への印刷により、様々なデザインを付与。  
→より身近で電力が得られ、低炭素社会の実現に貢献。

## ➤ 耐放射線性潤滑剤

➤ 原子力関連施設において、長期間安定した潤滑性能を発揮。

**NEW** 福島第一原発廃炉の第一歩・燃料デブリ※取り出し機器の全駆動部位に、世界最高レベルの耐放射線性潤滑剤「モレスコハイラッド」が全面搭載。

※炉内の核燃料棒が事故時に溶融・落下した後、冷え再固化した物。残留物中、最も高放射能線を発する。



ロボットアーム(=アーム型アクセス装置)

出典：技術研究組合  
国際廃炉研究開発機構

・原子炉等で生じる放射線は、その周辺機器で使用される潤滑剤の劣化を促進。(蒸発・固化)  
→機器を連続稼働させるためには、極めて高い耐放射線性をもった潤滑剤が必要。

MORESCOの耐放射線性潤滑剤が重要な役割を担い、福島廃炉に貢献。

# 新分野・新商品

## ▶ 水溶性切削油剤のモニタリングシステム



- ・顧客が使用している切削油剤の状態を、IoTモニタリング装置を用いて遠隔管理する。
- ・pH値を常時監視し、適正值に収まるように自動で調整する。（PCやスマホから接続可能）
- ・切削油剤の長寿命化、腐敗臭や変色等の抑制効果が見込まれる。

## ▶ 油圧作動油即時分析システム「Dr. HYDOL」



- ・動粘度、清浄度、pH、水分を常時監視することで、異常を迅速に検知する。
- ・作動油の劣化傾向を把握し、メンテナンス時期を最適化する。
- ・設備トラブル低減や設備寿命延長にも貢献する。

## ➤ マルチチャンバータイプのガス・水蒸気透過度測定装置

➤ 複数のサンプル測定に適したマルチチャンバータイプを新たに開発。



4チャンバータイプの新装置

性能	新装置	既存装置
試料室数 (チャンバー数)	◎ <b>(4チャンバー)</b>	○ (1チャンバー)
測定感度	○ ( $\sim 3 \times 10^{-5}$ )	◎ <b>(<math>\sim 1 \times 10^{-6}</math>)</b>
測定効率 ( $10^{-3}$ オーダー)	◎ <b>(4サンプル/4日間)</b>	○ (2サンプル/4日間)
結果解析	◎ <b>(簡単)</b>	○ (高度)
用途	生産工程 品質管理工程	研究開発

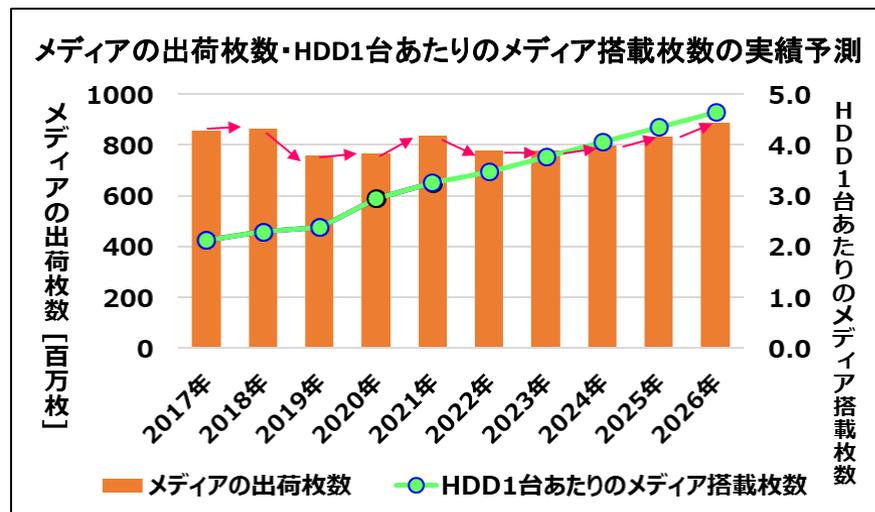
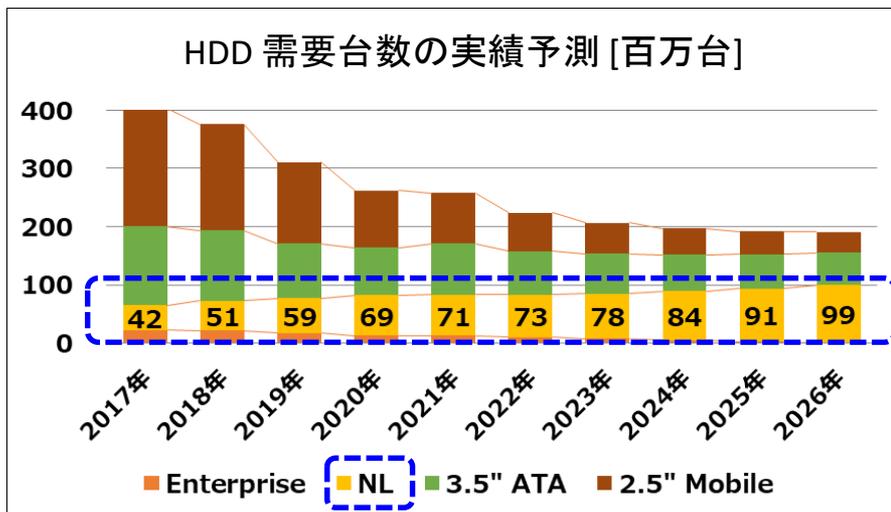
新装置と既存装置の比較表

- ・ 新装置は複数の試料室を搭載し、サンプル交換等にかかる作業効率向上を実現。
- ・ 誰でも簡単に使用できるように操作を簡易化、結果解析を自動化。

→ **電子部品・電子機器、食品・医療品包装分野の生産工程や品質管理工程等において、オペレーターの負荷を軽減。**

- ・ **水素透過度測定への展開を今後より一層強化し、水素社会実現の材料開発に貢献します。**

## 次世代磁気ディスク用表面潤滑油



出典: 株式会社テクノ・システム・リサーチ

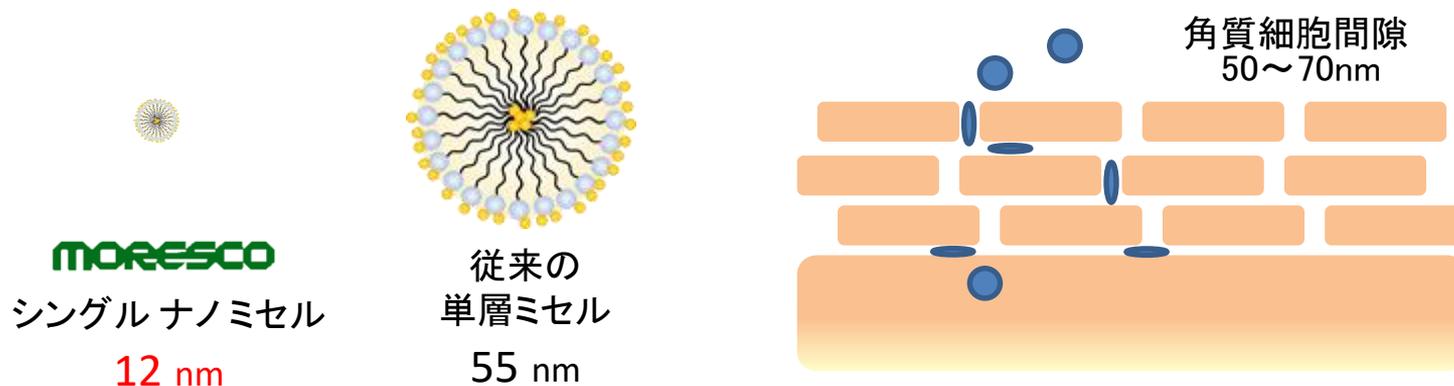
- ・ HDDの需要台数は年々減少傾向であるものの、データセンター向けのニアラインドライブ (NL)は成長が見込まれる。
- ・ ニアラインドライブはメディア搭載枚数が多いため、メディアの生産枚数はわずかであるが増加の傾向。

→既に弊社HDルブ品の90%以上をニアライン向けとして販売。

- ・ 従来以上の薄膜化により、記憶密度の向上と省エネルギー化を実現する新製品2種が大手HDDメーカーのニアライン向け新規HDDに採用。

## ▶ ナノエマルジョン技術

機能性素材を従来よりも非常に小さいサイズで溶解



ナノサイズの乳化で、難水溶性薬物の経口/経皮吸収率が大幅に向上



大手ヘルスケア企業で、化粧水での採用に向け評価進展

## ➤ 創薬を目指す共同研究開発

大学発ベンチャーの株式会社AutoPhagyGOに出資し共同研究開発を推進

生活習慣病改善を期待できるオートファジーを対象とした創薬活動を推進

薬理活性が向上した重要化合物を取得

2022年度内に、第一弾の特許出願を予定



オートファジー研究は、老化に関連する様々な現象や疾患の予防・治療へつながる研究

## 愛媛大学と新規アレルギー治療薬の共同研究開発を推進

気管支喘息、アレルギー性鼻炎など

幅広いアレルギー疾患に治療効果が期待

活性、吸水性、安全性を備えた化合物の取得を目指し合成展開中



愛媛大学大学院医学系研究科  
愛媛大学医学部



## ▶ 中国・海寧市に子会社を設立



2022年3月23日  
新会社設立

### 子会社の概要

名称	莫莱斯柯（浙江）功能材料有限公司
事業内容	潤滑油、封止材の開発、製造、販売および輸出入
資本金	12,000千米ドル
資本構成	当社100%

### 設立目的・今後の展望

- ①特殊潤滑油生産拠点の集約による生産能力・生産効率の向上
- ②中国子会社の管理部門統括による業務の効率化
- ③R&D体制強化による環境負荷低減に資する製品等の開発

## ▶ 健康経営優良法人2022(大規模法人部門)に認定

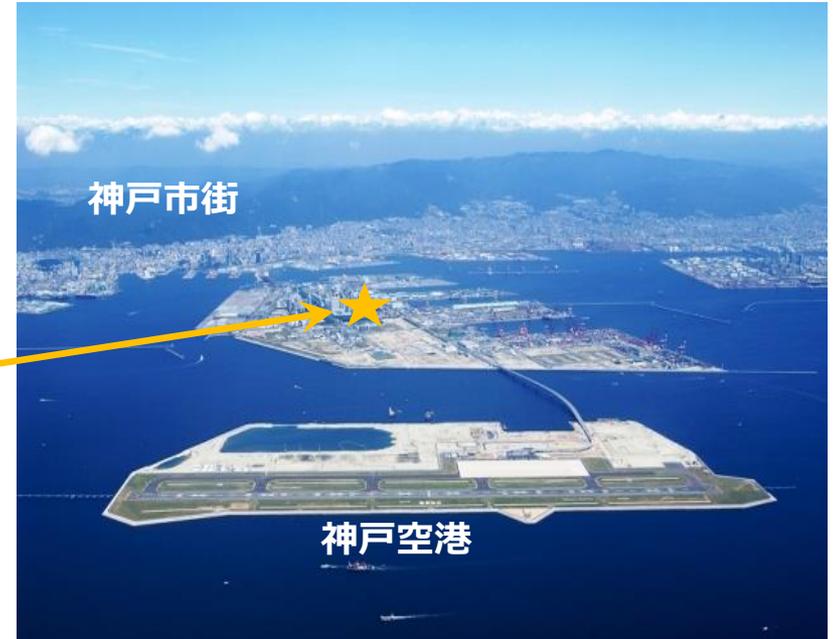


「健康経営」・・・従業員等の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に実践すること。

———MORESCO健康経営宣言———

従業員が心身ともに健康であることが、企業の持続的な発展に不可欠と考え、「一人一人が豊かな環境で育ち、新たな価値を育てていく会社」を実現するため、従業員の健康づくりを推進していきます。

※特に優良な健康経営を実践している法人を顕彰する制度（経済産業省）



この資料に掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略等に関わる情報は、本資料の作成時点における当社の判断に基づくものであり、今後、予告なしに変更することがあります。本資料記載の業績見通しや目標数値のみに全面的に依存して、投資判断を下すことによるいかなる損失に対しても、当社は責任を負いません。なお、当資料を無断で複写複製、配布することを禁じます。